

令和 5 年 6 月 2 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2017～2021

課題番号：17H00933

研究課題名(和文)世界システムの転換点としての1970年代 石油危機の衝撃

研究課題名(英文)The 1970s as the Turning point of the Modern World System: The impact of the Oil Crises

研究代表者

秋田 茂(Akita, Shigeru)

大阪大学・大学院人文学研究科(人文学専攻、芸術学専攻、日本学専攻)・教授

研究者番号：10175789

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 33,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、1970年代の二回の石油危機(1973-74年、1979年)が国際政治経済体制に及ぼした衝撃を、歴史学、国際関係論、外交史、経済史、アジア・アフリカ地域研究から多角的・学際的に解明した。ブレトン・ウッズ体制の崩壊による「国際金融の民営化」とオイル・マネーの還流(ユーロドル市場の発展)、アメリカによる石油外交の展開、東アジアの輸出志向型工業化の進展、南アジアの「緑の革命」の展開により、石油危機は世界システムの構造的変容に決定的なインパクトを及ぼし、冷戦体制と「第三世界」の解体だけでなく、80年代の「東アジアの奇跡」につながるアジア太平洋地域の経済発展を加速する転換点となった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来の石油危機論は、欧米の先進工業国に対するインパクトを中心に語られてきたが、本研究は、アジア・アフリカ地域からの観点で石油危機の衝撃を考察し、1980年代から本格化する東アジア地域の急速な経済発展＝「東アジアの奇跡」が実現した背景・諸要因の連鎖・連関性(冷戦他制の変容と輸出志向型工業化の結合、国際金融市場の変容とオイル・トライアングルの形成、経済援助・ODAの有効活用)を解明した。

現代世界は、ウクライナ戦争によるエネルギー危機に直面しているが、50年前の世界を振り返ることで、グローバルな政治経済秩序の危機を乗り越えるヒントを得ることができる。

研究成果の概要(英文)：This joint research reconsiders the global significance of the 1970s by focusing on the impact of the energy crises on the international order during that decisive decade. It gives particular attention to the transformative effects of the oil crises of 1973-74 and 1979 on developing countries in Asia and Africa. Scholarship on the oil crises has focused on their effects on the advanced Western economies, but their impact on the non-Western world was in many respects even more profound. The oil crises of the 1970s laid the groundwork for the restructuring of the international economic order and the so-called economic miracle in Asia. This project consists of three Parts: Part I, "Oil Diplomacy and the Cold War"; Part II, "Transformation of International Development Financing"; and Part III, "The Cold War, Development and Aid; Asia and Africa."

研究分野：グローバルヒストリー

キーワード：石油危機 輸出志向型工業化 国際金融の民営化 緑の革命 オイル・トライアングル 第三世界 第
二次冷戦 アジア開発銀行

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

第二次世界大戦の終結から 21 世紀現在にいたる 70 余年の間に、I・ウーラーステインが提唱した欧米を中心とする近代世界システムは、環大西洋経済圏から、太平洋を中心とするアジア太平洋経済圏へ、さらに 21 世紀にはインド洋を巻きこんだインド・太平洋経済圏へと、その中核地域とダイナミズムは大きく変容しつつある。本研究は、この世界システム変容の歴史的起源を、1970 年代の二回の石油危機がもたらした国際政治経済秩序への衝撃を通じて探究する。

石油危機が国際政治経済秩序に及ぼした影響については、従来から国際政治における資源ナショナリズムの勃興の文脈で重視されてきたが、経済開発・国際金融との関連で、石油危機がもたらした国際秩序の変容、特に南北問題から「南南問題」への変化の諸原因は明らかでない。

応募者は、戦後国際経済秩序に関して、1950 年代における冷戦と脱植民地化の交錯、アジア国際秩序との関連で、コロンボ・プランを中心とした戦後アジア国際秩序の形成を論じた (Shigeru Akita, Gerold Krozewski, and Shoichi Watanabe (eds.), *The Transformation of the International Order of Asia: Decolonization, the Cold War, and the Colombo Plan* (London and New York: Routledge, 2015))。

次いで、国連が「開発の 10 年」と位置付け、経済開発・工業化が焦点となった 1960 年代について、インド援助コンソーシアムと東アジアの開発主義の開発政策・経済援助における独自性を論じた (秋田茂『帝国から開発援助へ』名古屋大学出版会、2017 年 2 月刊行予定)。60 年代のアジアの開発主義を類型化する過程で、シンガポールに代表されるように、政府間の経済援助 (後の ODA) に依存せず、民間直接投資の積極的誘致を通じて工業化に成功した「民間資本主導型」開発主義の世界史的意義に着目するに至った。

本共同研究では、発展途上国の経済発展にとって、政府間の経済援助に代わり民間投資を通じた「経済協力」の役割が大幅に増大した 1970 年代を分析対象とする。70 年代において、輸出主導型工業化政策 (Export Oriented Industrialization: EOI) を採用して経済成長・「離陸」に成功した東アジア・東南アジアの NIES 諸国の経済発展と、相対的な停滞の中で「緑の革命」を通じて食糧自給化に成功して後の経済発展の基盤を構築したインド、さらに、輸入代替工業化政策 (Import Substitution Industrialization: ISI) の失敗と石油・工業製品価格高騰による交易条件の悪化により経済的停滞を余儀なくされたアフリカ諸国を相互に比較することで、1970 年代の世界経済・世界システムの変容を考察する必然性を改めて意識するようになった。

1970 年代の石油危機については、D. ヤーギンの研究が代表的であるが、石油産業・資本の分析としては優れているものの、世界経済の構造的再編や、アジア NIES 諸国の経済発展 = 「東アジアの奇跡」についての分析は弱い。他方、杉原薫は、アジア太平洋経済圏の形成を、東アジア = アメリカ合衆国 = 中東産油国を結ぶグローバルな三角貿易、「オイル・トライアングル」の形成と結びつける先見的な解釈を提示している。だが、1970 年代にオイル・トライアングルに参入できなかった南アジア・アフリカ諸国の動向とその阻害要因は必ずしも明らかにされていない。

2. 研究の目的

(1) 「東アジアの奇跡」と経済援助の連関性

第一に、1970 年代の二回の石油危機を乗り切り持続的経済成長が可能になった東アジア・東南アジア諸国 (アジア NIES) の輸出主導型工業化 (EOI)、世銀が提唱した「東アジアの奇跡」 (East Asian Miracle) と経済援助との関連を、冷戦体制の下で日米両国が中心となって設立したアジア開発銀行 (Asian Development Bank: ADB 本部マニラ) の活動を基軸に考察する。ADB は多角的援助機関であり、急増する民間投資と政府開発援助 (ODA) との相互連関性解明の手掛かりとなる。

(2) 農業開発の進展「緑の革命」と世界銀行

第二に、1970 年代に東アジア型開発主義とは異なる「農村・都市インフォーマル部門経済生活圏」 (柳澤悠) を基盤に、緩やかな経済成長と食糧増産 = 「緑の革命」に成功したインドの経済開発が可能になった要因を、インド社会の二層性と農業開発政策、およびマクナマラ世銀総裁が推進した世界銀行・国際開発協会 (IDA) による農業・社会開発援助との関連性を明らかにする。

(3) オイルマネーの還流 オイル・トライアングルの形成と工業化

第三に、杉原薫が提起した「オイル・トライアングル」と国際金融、東アジアの開発主義と開発資金問題の実態を明らかにする。「東アジアの奇跡」を実現した日本とアジア NIES 諸国の工業化は、石油輸入を通じ米ドルの産油国への移転を促し、巨額のオイルマネーはユーロダラー市場 (ロンドン・シティ) やシンガポール金融市場の変容を促した。湾岸産油国のオイルマネーと民間投資、「民間資本主導型」開発主義との連関性を明らかにする。

(4) 新国際経済秩序 (NIEO) の失敗、アフリカの低迷の原因と国際金融

石油危機は、発展途上国の交易条件の悪化をもたらし、特にアフリカ諸国は多額の国際収支赤字 (累積債務) を抱えこみ、経済開発計画は失速あるいは修正を余儀なくされた。1960 年代か

ら途上国が国連等で提唱した「新国際経済秩序」(NIEO)は破綻し、アフリカ経済の長期停滞(アフリカ問題)による「南南問題」が生じた。NIEOの破綻は、上記(3)のオイルマネーの還流と国際金融市場の急拡大＝「民営化された国際通貨システム」と同時並行で展開した。NIEOの失敗と経済開発政策の破綻を、東アフリカ諸国を事例に検討し、東アジア・南アジアの事例と比較対照する。

3. 研究の方法

- (1) 第一年次から第四年次までは、1970年代の国際金融と経済開発(工業化・農業開発)との関連性を検証しうる統計データ・第一次史資料の収集と整理に力を置く。具体的には、開発政策で重要な役割を演じた世界銀行・国際開発協会(本部:ワシントンDC)、イングランド銀行、OECD(本部:パリ)、アジア開発銀行(本部:マニラ)、インド連邦準備銀行(本部:ムンバイ)等の国際金融機関での史資料調査、関連各国の公文書館での史料収集を継続的に行う。
- (2) 年4回の定例研究会(1泊2日)を開催し、検討課題として掲げた四つの主題を順に議論する。各年度の最終研究会は国際ワークショップとし、海外の研究協力者、あるいは関連する外国人研究者を招聘して、英語で討議を行う。
- (3) グローバルヒストリー研究を担える若手研究者の育成:
本研究では、「研究参加者・補助者」として、院生を定例研究会や若手セミナーに参加させ、次世代のグローバルヒストリー研究者を養成するための機会をつくる。
- (4) 日本の学界からの積極的な研究成果の情報発信をめざす本研究にとって、海外の研究協力者との共同研究は非常に重要であり、以下の主要研究者との国際共同研究を実現する。
 1. Gopalan Balachandran (ジュネーブ国際関係開発大学院教授、スイス:南アジア経済史)
 2. Gareth Austin (ケンブリッジ大学教授、イギリス:アフリカ経済史)
 3. David Painter (ジョージタウン大学教授、アメリカ:外交史)
 4. Dane Kennedy (ジョージワシントン大学教授、アメリカ:国際関係史)
 5. Mark Metzler (ワシントン大学教授、アメリカ:東アジア地域研究)
- (5) 研究成果は、国際ワークショップを通じてまとめていき、最終的に2022年7月にパリで開催された第19回世界経済史会議(WEHC:対面Hybrid開催)でパネルを組織して発表した。その成果は英語論文集としてロンドンのBloomsbury Academic社より、2023年11月(第一次石油危機50周年)に刊行の予定である。同時に国内では、2021年度政治経済学・経済史学会、2022年度社会経済史学会(いずれも全国学会大会でオンライン開催)でパネルを組織して発表した。

4. 研究成果

(1) 1970年代の石油危機は国際政治面では、70年代後半から80年代前半の「グローバル冷戦」に帰結する地政学的な変動、石油外交の展開、「第三世界」の解体を引き起こした。すなわち、アメリカ合衆国は覇権国的な石油外交戦略を追求し、新自由主義にもとづく新たな冷戦体制の再編を目指した。この過程で、ソ連は産油国として、一時的に石油価格高騰の恩恵を享受した。しかし、東欧諸国への経済・財政支援や非ヨーロッパ地域(アフリカ諸国)への軍事援助が次第に重荷となり、重厚長大産業の再編がなされないまま、西側からの資本財や大量の食糧輸入により、対外債務が累増した。

同様に、1960年代に「新国際経済秩序」(NIEO)を唱えUNCTADを舞台に「第三世界論」(The Third World Project)を提唱していたアジア・アフリカの開発途上国も、短期の第一次産品価格上昇の恩恵を若干受けたものの、世界的なインフレの亢進と資本財の輸入依存、中間財の高騰により経常収支は赤字に転じ、膨大な累積債務を抱えることになった。

他方、(後述する)東アジア諸国が巧みな経済運営で危機を乗り越え、産油国も自国中心主義に傾斜するなかで、「第三世界」のまとまりと求心力は失われ、「第三世界」は事実上解体するにいたった(現在の「グローバル・サウス」とは異なる、多極化した世界の出現)。「第三世界」論から「グローバル・サウス」論への移行を、70年代の石油危機はもたらしたのである。

(2) 1970年代の石油危機は、国際金融市場の変容と緊密に結びついていた。1970年代初頭のブレトン・ウッズ体制の崩壊(いわゆるニクソン・ショックと変動相場制への移行)と第一次石油危機の勃発により、突然産油国が獲得した巨額の「オイルマネー」は、国際金融市場を安定化させるために、先進国主導の金融市場に還流させる必要が生じた。その結果、ロンドンのシティを中心とするユーロ・ドル市場、シンガポールのアジア・ドル市場のようなオフショア金融市場が急速に拡大した。オフショア市場の膨張は、英米両国の金融市場の影響力を強め、特に第二次石油危機以降は、レーガン政権のもとでアメリカ経済の金融化が進展することになった。

オイルマネーは、欧米の民間銀行を通じて「第三世界」とりわけラテン・アメリカの開発途上国に安価な開発資金として大量に融資され、1970年代末から80年代初頭のクレジット・ブーム(バブル経済)を引き起こした。だがそれは、1982年以降のラテン・アメリカ諸国の一連の「累積債務危機」を引き起こし、環大西洋世界において1929年世界恐慌に匹敵する経済的大混乱を

引き起こした。

他方で、日本は労働集約的で民生部門の耐久消費財（家電・自動車等）をアメリカ合衆国に集中的に輸出し、獲得した貿易黒字で急増した石油輸入代金を相殺した。中東の湾岸産油国は、そのオイルマネーをオフショア市場での投資、あるいは最新の兵器購入に充当した。その結果、杉原薫が主張するように、中東産油国 = 日本 = アメリカ合衆国の三地域間を米ドルが還流する「オイル・トライアングル」が形成された。東アジア・東南アジアの新興経済地域(Asian NIES)である韓国とマレーシア、シンガポールも、このトライアングルに参入した。

(3) 本研究ではグローバルヒストリーの「双方向的比較」(bilateral comparison)の方法論を活用して、地域的な事例研究として中国（中華人民共和国）、南アジアのインド、アフリカのケニア・ガーナの石油危機への対応を考察した。

中国は、社会主義陣営に属する開発途上国（第三世界）であり、同時に産油国でもあるというユニークな特徴を備えていた。第二次石油危機の直前の1978年に、鄧小平が「改革開放政策」への政策転換を行い、Asian NIES 諸国をモデルとする輸出志向型工業化政策を導入した。南アジアの地域大国インドは、1960年代中葉から経済開発のため、冷戦体制の下でも、アメリカ合衆国とソ連を含めた東西両陣営だけでなく世界銀行（世銀）からも巨額の経済援助を受け、1960年代末からは食糧増産をめざす農業開発を重視してきた。石油危機は、世界的な食糧危機、石油関連原料に依存した化学肥料危機でもあった。インドは、この複合的な経済危機を、「緑の革命」による食糧自給の実現と、第二次石油危機時の国際通貨基金(IMF)による巨額緊急融資により乗り切った。アジア開発銀行も、東南アジア諸国の農業開発を積極的に支援し、1970年代のアジア諸国の「緑の革命」は大きな成果を挙げることになる。

他方、アフリカ諸国の石油危機への対応は、上記のアジア諸国と比べると対照的で、前述の複合的な経済危機と経常収支の赤字急増、累積債務化により経済開発政策は停滞した。そうした苦境の中でも、国内の政治的安定により良好なガバナンスを維持したケニアは、ガーナとは対照的に第一次産品（農産品）輸出・加工型の経済成長を実現した。

こうして、1970年代の二度の石油危機は、経済面での「第三世界」諸地域の多様化と、グループとしての凝集性の喪失・解体を引き起こす最大の要因となった。1982年に始まる「累積債務危機」を通じた国際政治経済秩序の再編、冷戦体制の終焉に向けた兆候が現れた。

以上に要約した研究成果は、下記の内容の英語著書として、ロンドンのBloomsbury Academic社より、2023年11月に刊行予定で準備を進めている。

Oil Crises of the 1970s and the Transformation of International Order: Economy, Development and Aid in Asia and Africa

CONTENTS

Introduction Shigeru Akita

Part I: Oil Diplomacy and the Cold War

1. The Oil Crises of the 1970s and the Global Cold War
David Painter
2. The Oil Crises as Fulcrum for the Rise and Fall of the Third World Project
Dane Kennedy
3. The Cold War, the 1970s, and the Role of the Asian Development Bank in Southeast Asia
Hideki Kan

Part II: Transformation of International Development Financing

4. Privatisation of International Development Financing: Oil-money, Emerging Euro-dollar Market and Developing Countries in the 1970s
Ikuto Yamaguchi
5. Economic Development through Oil in Malaysia and Singapore: Increased State Capacity and Formation of the East Asian Oil Triangle
Shigeru Sato
6. The 1970s macrocycle: Eurodollars, petrodollars, credit booms and debt busts, 1973-1982
Mark Metzler

Part III: The Cold War, Development and Aid--Asia and Africa

7. Oil for the Lamps of America? Sino-American Oil Diplomacy, 1973-1979
Kazushi Minami
8. "Green Revolution" in India, the World Bank and the Oil Crises: Focusing on Chemical Fertilizer Problems
Shigeru Akita
9. Ghana and Kenya facing the 1970s commodity price shocks: the local and the global
Gareth Austin

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計38件（うち査読付論文 31件 / うち国際共著 3件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 佐藤尚平	4. 巻 -
2. 論文標題 イギリス（大英帝国）と中東	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『中東・オリエント文化事典』丸善出版	6. 最初と最後の頁 288-289
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 浅野豊美	4. 巻 -
2. 論文標題 過渡期の日韓関係 村山談話と靖国問題、1994-96年（木村幹との共著）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 木村幹・田中悟・金容民編『平成時代の日韓関係 楽観から悲観への三〇年』ミネルヴァ書房	6. 最初と最後の頁 84-119
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 浅野豊美	4. 巻 20
2. 論文標題 書評・金恩貞著『日韓国交正常化交渉の政治史』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代韓国朝鮮研究	6. 最初と最後の頁 67-74
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 菅英輝	4. 巻 50
2. 論文標題 冷戦とは何だったのか 冷戦後の世界にとっての含意	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 COSMICA（京都外国語大学）	6. 最初と最後の頁 1-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菅英輝	4. 巻 28
2. 論文標題 冷戦後の日米関係 日米安保再定義を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東アジア研究	6. 最初と最後の頁 1-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菅英輝	4. 巻 -
2. 論文標題 日韓歴史認識問題インタビュー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東北亜歴史財団韓日歴史問題研究所編『日本の知識人に聞く 韓日関係と歴史問題』東北亜歴史財団出版・トング文化出版	6. 最初と最後の頁 37-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 秋田茂	4. 巻 49
2. 論文標題 解説・『世界市場の形成』の魅力	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 松井透著『世界市場の魅力』ちくま学芸文庫	6. 最初と最後の頁 473-481
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 秋田茂	4. 巻 -
2. 論文標題 書評・スニール・アムリス著『水の大陸 アジアーヒマラヤ水系・大河・海洋・モンスーンとアジアの近現代』草思社	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本経済新聞・朝刊・2021年3月27日	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菅 英輝	4. 巻 2
2. 論文標題 「バクス・アメリカーナ」の世界	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 秋田茂責任編集『グローバル化の世界史』ミネルヴァ書房	6. 最初と最後の頁 241-302
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菅 英輝	4. 巻 -
2. 論文標題 競合する歴史認識、変動する東アジア国際関係 (序章)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 編著『競合する歴史認識と歴史和解』晃洋書房	6. 最初と最後の頁 1-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菅 英輝	4. 巻 -
2. 論文標題 歴史認識をめぐる日韓関係と「被害者ナショナリズム」-「反対論のうちに共通点を求める」-(第5章)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 編著『競合する歴史認識と歴史和解』晃洋書房	6. 最初と最後の頁 127-170
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菅 英輝	4. 巻 -
2. 論文標題 書評論文：文正仁著『太陽政策－朝鮮半島の平和への道』（山本武彦・宮脇昇編訳（志学社、2018年））	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『グローバル・ガバナンス』	6. 最初と最後の頁 130-135
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山口育人	4. 巻 第128編第5号
2. 論文標題 現代—イギリス	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 史学雑誌 (2018年の歴史学界—回顧と展望—)	6. 最初と最後の頁 370-374
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤尚平	4. 巻 985号
2. 論文標題 破棄された文書に光を当てる：イギリス帝国による植民地文書の隠蔽	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 11-21, 44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浅野豊美	4. 巻 -
2. 論文標題 歴史としての日韓国交正常化重版に寄せて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 木宮正史・李鐘元 (共編) 『歴史としての日韓国交正常化 東アジア冷戦編』法政大学出版局	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浅野豊美	4. 巻 -
2. 論文標題 台湾法制 同化と差別の根底にあったもの	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 若林正文・家永真幸編 『台湾研究入門』東京大学出版会	6. 最初と最後の頁 17-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浅野豊美	4. 巻 -
2. 論文標題 日韓国交正常化の原点—法的請求権と政治的請求権、そして異次元の経済協力との併存	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 吉澤文寿編『歴史認識から見た戦後日韓関係—「1965年体制」の歴史学・政治学的考察』社会評論社	6. 最初と最後の頁 133-163
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shigeru Akita	4. 巻 22
2. 論文標題 Global History Studies at Osaka University	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Bulletin of Asia-Pacific Studies	6. 最初と最後の頁 25-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 秋田 茂	4. 巻 -
2. 論文標題 アジアからグローバル・ヒストリーを問い直す	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『歴史学と世界文学』臨川書店	6. 最初と最後の頁 33-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shigeru Akita	4. 巻 Vol.8, No.1
2. 論文標題 Introduction, Special Issue: A View from the East	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Asian Review of World Histories	6. 最初と最後の頁 5-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1163/22879811-12340060	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shigeru Akita	4. 巻 Vol.7
2. 論文標題 Introduction to the Special Issue: The First British-East Asian Conference of Historians 2018	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Core and Periphery in British and east Asian Histories, The East Asian Journal of British History	6. 最初と最後の頁 1-2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 秋田 茂	4. 巻 43
2. 論文標題 江沛報告へのコメント	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 現代中国研究	6. 最初と最後の頁 118-119
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Akita Shigeru	4. 巻 6
2. 論文標題 Intra-Asian Competition and Collaboration against the West: The N.Y.K. Bombay Line, Tata & Sons, and Indian Cotton at the End of the Nineteenth Century	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Asian Review of World Histories	6. 最初と最後の頁 277-293
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1163/22879811-12340038	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 秋田茂	4. 巻 第9章
2. 論文標題 アジア太平洋の世紀	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 秋田茂編著 『グローバル化の世界史』 ミネルヴァ書房	6. 最初と最後の頁 329-356
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 秋田茂	4. 巻 終章
2. 論文標題 地球社会の行方と課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 秋田茂編著『グローバル化の世界史』ミネルヴァ書房	6. 最初と最後の頁 377-383
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菅英輝	4. 巻 第7章
2. 論文標題 「バクス・アメリカーナ」の世界	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 秋田茂編著『グローバル化の世界史』ミネルヴァ書房	6. 最初と最後の頁 241-302
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤尚平	4. 巻 127編5号
2. 論文標題 2017年の歴史学界：回顧と展望（総説）西アジア・北アフリカ（近現代）	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 史学雑誌	6. 最初と最後の頁 305-310
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 秋田茂・岸田真他	4. 巻 地理歴史編
2. 論文標題 歴史総合、世界史探求の担当箇所	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 地理歴史編』東洋館出版社	6. 最初と最後の頁 123-90, 271-349
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 秋田茂	4. 巻 191
2. 論文標題 序論 グローバルヒストリーから見た世界秩序の再考	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国際政治	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hideki Kan	4. 巻 XLVII
2. 論文標題 Challengers to the 'Postwar Regime' and the 'History Problem' in the Asia-Pacific	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 京都外国語大学 COSMICA	6. 最初と最後の頁 37-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hideki Kan	4. 巻 chap. 6
2. 論文標題 The Making of 'an American Empire' and US Responses to Decolonization in the Early Cold War Years	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Tomohiko Uyama (ed.), Comparing Modern Empires: Imperial Rule and Decolonization in the Changing World Order, Slavic-Eurasian Research Center, Hokkaido University	6. 最初と最後の頁 147-180
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 菅英輝	4. 巻 第10章
2. 論文標題 アメリカ合衆国の対韓援助政策と朴正熙政権の対応 1964~1970年代初頭	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 渡辺昭一編 『冷戦変容期の国際開発援助とアジア』 ミネルヴァ書房	6. 最初と最後の頁 297-339
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菅英輝	4. 巻 第5章
2. 論文標題 覇権システムとしての冷戦とグローバル・ガバナンスの変容	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 グローバル・ガバナンス学会編『グローバル・ガバナンス学 I 理論・歴史・規範』法律文化社	6. 最初と最後の頁 104-126
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前川一郎	4. 巻 第1章
2. 論文標題 帝国解体期イギリス援助の変容 対インド援助の分析から	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 渡辺昭一編『冷戦変容期の国際開発援助とアジア』ミネルヴァ書房	6. 最初と最後の頁 27-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山口育人	4. 巻 第12章
2. 論文標題 エカフェとアジアの工業化戦略 地域経済協力構想を手掛かりに	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 渡辺昭一編『冷戦変容期の国際開発援助とアジア』ミネルヴァ書房	6. 最初と最後の頁 368-391
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山口育人	4. 巻 第6章
2. 論文標題 イギリス帝国からコモンウェルスへの移行と戦後国際秩序	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 グローバル・ガバナンス学会編『グローバル・ガバナンス学 I 理論・歴史・規範』法律文化社	6. 最初と最後の頁 127-145
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shohei Sato	4. 巻 Vol.45, No.4
2. 論文標題 'Operation Legacy': Britain's Destruction and Concealment of Colonial Records Worldwide	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Imperial and Commonwealth History	6. 最初と最後の頁 697-719
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shohei Sato	4. 巻 編集本
2. 論文標題 An Un-revolutionary globalization: the 1960s and the United Arab Emirates	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Chen Jian, Martin Klimke, Masha Kirasirova, Mary Nolan, Marilyn Young, Joanna Waley-Cohen, eds., Routledge Handbook of the Global Sixties, London and New York, NY: Routledge	6. 最初と最後の頁 469-479
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

[学会発表] 計51件 (うち招待講演 27件 / うち国際学会 35件)

1. 発表者名 山口育人
2. 発表標題 国際開発金融の民営化 オイルマネー、ユーロダラー市場の形成と1970年代の開発途上国
3. 学会等名 パネル・ディスカッションD「石油危機の衝撃と1970年代アジア国際経済秩序の変容」2020年度政治経済学・経済史学会秋季学術大会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Ikuto Yamaguchi
2. 発表標題 'Privatisation of International Development Financing': Oil-money, Emerging Euro-dollar Market and Developing Countries in the 1970s
3. 学会等名 International Workshop: "The Oil Crises and Transformation of International Economic Order of Asia in the 1970s" at Sigur Center for Asian Studies, George Washington University, USA (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hideki Kan
2. 発表標題 Session 4 “ The US-China Competition and the Korean Peninsula-- ” Roundtable presentation from “ a perspective of the US and US-Japan relations ”
3. 学会等名 A Networked Indo-Pacific and Future of East Asian Security、Korea Foundation (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Hideki Kan
2. 発表標題 The Cold War, the Oil Shocks, and the Role of the Asian Development Bank in southeast Asia
3. 学会等名 International Workshop: "The Oil Crises and Transformation of International Economic Order of Asia in the 1970s" at Sigur Center for Asian Studies, George Washington University, USA (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 菅英輝
2. 発表標題 冷戦、石油危機と東南アジアにおけるアジア開発銀行の役割
3. 学会等名 パネル・ディスカッションD「石油危機の衝撃と1970年代アジア国際経済秩序の変容」2020年度政治経済学・経済史学会秋季学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 佐藤滋
2. 発表標題 東南アジアの工業化とオイル・トライアングル-マレーシアとシンガポールを事例に
3. 学会等名 パネル・ディスカッションD「石油危機の衝撃と1970年代アジア国際経済秩序の変容」2020年度政治経済学・経済史学会秋季学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Shigeru Sato
2. 発表標題 Industrialization in Southeast Asia and the Oil-Triangle: the cases of Malaysia and Singapore
3. 学会等名 International Workshop: "The Oil Crises and Transformation of International Economic Order of Asia in the 1970s" at Sigur Center for Asian Studies, George Washington University, USA (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 秋田茂
2. 発表標題 インドの「緑の革命」、世界銀行と石油危機 化学肥料問題を中心に
3. 学会等名 パネル・ディスカッションD「石油危機の衝撃と1970年代アジア国際経済秩序の変容」2020年度政治経済学・経済史学会秋季学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Shigeru Akita
2. 発表標題 Chair and Comments: Round Table--"American Empire" in the context of Global History
3. 学会等名 ZOOM Substitute Meeting of the 70th Annual Congress of Japanese Association of Western History (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 秋田茂
2. 発表標題 コロボ・プランと開発主義 (パクス・ブリタニカの世界4)
3. 学会等名 大阪府高齢者大学校 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Shigeru Akita
2. 発表標題 'Green Revolution' in India, the World Bank and the Oil Crises in the 1970s: Focusing on Chemical Fertilizer Problems
3. 学会等名 International Workshop: "The Oil Crises and Transformation of International Economic Order of Asia in the 1970s" at Sigur Center for Asian Studies, George Washington University, USA (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Toyomi Asano
2. 発表標題 The 1970s as a Turning-point of Japanese Economic Cooperation--Tanaka Kakuei Administration and its Resource Diplomacy
3. 学会等名 International Workshop: "The Oil Crises and Transformation of International Economic Order of Asia in the 1970s" at Sigur Center for Asian Studies, George Washington University, USA (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 菅 英輝
2. 発表標題 朝鮮半島の『非核化』問題と日韓マスコミの認識と報道
3. 学会等名 2019年日韓公共外交第3回セミナー「北東アジアの情勢と地方外交」第一セッション：朝鮮半島の非核化問題と日韓マスコミの認識と報道」(2019年10月18日、九州国際大学KIUホール)(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 菅 英樹
2. 発表標題 (討論者)報告者：古川元「民族自決の100年—国民国家建設と民族国家建設の相克—」報告
3. 学会等名 日本平和学会2019年秋季集「平和学の方法と実践」分科会、新潟県立大学(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 菅 英輝
2. 発表標題 (討論者) 部会「東アジアの安全保障ガバナンスー沖縄、日米安保、『歴史認識』からの考察 5月11日
3. 学会等名 グローバル・ガバナンス学会第12回研究大会(2019年5月11-12日 神戸大学国際文化研究推進センター)(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shohei Sato
2. 発表標題 Towards a global comparison of selective amnesia: Britain's colonial cover-up across Asia
3. 学会等名 The 11th International Conference of Asia Scholars, Leiden, 17 July 2019 (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岸田 真
2. 発表標題 書評報告: "高橋和弘著 『ドル防衛と日米関係』(千倉書房、2018年) 合評会"
3. 学会等名 秋田科研研究会2019年5月25日 早稲田大学
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shigeru Akita
2. 発表標題 British Economic Interests and the International Order of Asia in the 1930s
3. 学会等名 Chinese History seminar, School of East Asian Studies, Gottingen University (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Shigeru Akita
2. 発表標題 From Empires to Development Aid - A Global Historical Perspective on the Asian International Economic Order in the 1950s and 1960s
3. 学会等名 Heidelberg History Workshop: "From War to Cold war: The Asian World Order in the Middle of the Twenties-Century", Karl Jaspers Center, Heidelberg University (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 秋田 茂
2. 発表標題 基調講演「アジアからグローバルヒストリーを問い直す」
3. 学会等名 国際ワークショップ「グローバル・ヒストリーと世界文学」国際日本研究コンソーシアム, 大阪大学会館 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ikuto Yamaguchi
2. 発表標題 Privatisation of International Development Financing: Oil-money, Emerging Euro-dollar Market and Developing Countries in the 1970s
3. 学会等名 International Workshop: "The Oil Crises and Transformation of International Economic Order of Asia in the 1970" at Center for Transcultural Studies, University of Heidelberg, Germany (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Shigeru Akita
2. 発表標題 "Green revolution" in India, the World Bank and the Oil Crises: focusing on Chemical Fertilizer Problems
3. 学会等名 International Workshop: "The Oil Crises and Transformation of International Economic Order of Asia in the 1970" at Center for Transcultural Studies, University of Heidelberg, Germany (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hideki Kan
2. 発表標題 The Cold War, the 1970s, and the Role of the Asian Development Bank in Southeast Asia
3. 学会等名 International Workshop: "The Oil Crises and Transformation of International Economic Order of Asia in the 1970" at Center for Transcultural Studies, University of Heidelberg, Germany (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Shigeru Akita
2. 発表標題 'Green Revolution' in India, the World Bank and the Oil Crises
3. 学会等名 The 12th Indo-Japanese Dialogue on the Transformation of International Economic Order of Asia in the 1970s (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shigeru Akita
2. 発表標題 The Aid-India Consortium and the 'Green revolution' in India in the late 1960s-1970s
3. 学会等名 The 4th International Conference of the Asian Association of World Historians (AAWH) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 秋田茂
2. 発表標題 アジアから見たグローバルヒストリーの構築
3. 学会等名 国際交流基金招聘集中講義・ハノイ国家大学人文社会科学大学日本語学科 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shigeru Akita
2. 発表標題 Comments on the Panel: The Middle East and the Economy of the British Empire
3. 学会等名 Comparative Studies of Islamic Areas: New Actors, Fresh Angles, Waseda University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shigeru Akita
2. 発表標題 Beyond the 'Core-Periphery' framework: Reinterpretation of the Modern World-System from Asian Perspectives
3. 学会等名 The 1st British-East Asian Conference of Historians (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 菅英輝
2. 発表標題 合評会：菅英輝著『冷戦と「アメリカの世紀」』（岩波書店、2016年）
3. 学会等名 2018年度アメリカ学会年次大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hideki Kan
2. 発表標題 U.S. 'Open Door' Imperialism and 'Collaborators'
3. 学会等名 Special research meeting on A.G. Hopkins, American Empire (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 菅英輝
2. 発表標題 冷戦期アメリカの秩序形成とアジアコラボレーター概念の適用可能性
3. 学会等名 関西アメリカ史研究会・2018年11月例会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hideki Kan
2. 発表標題 The Cold War, the 1970s, and the Role of the Asian Development Bank in Southeast Asia
3. 学会等名 The 12th Indo-Japanese Dialogue on the Transformation of International Economic Order of Asia in the 1970s（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shohei Sato
2. 発表標題 Te Middle East and the Economy of the British Empire
3. 学会等名 Comparative Studies of Islamic Areas: New Actors, Fresh Angles, Waseda University（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ikuto Yamaguchi
2. 発表標題 ECAFE and Asian Industrial Development Problems in the late 1960s and the early 70s
3. 学会等名 The 4th International Conference of the Asian Association of World Historians (AAWH)（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ikuto Yamaguchi
2. 発表標題 'Privatisation of International Development Finance': Oil-money, Emerging Euro-dollar Market and Developing Countries in the 1970s
3. 学会等名 The 12th Indo-Japanese Dialogue on the Transformation of International Economic Order of Asia in the 1970s (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Makoto Kishida
2. 発表標題 Formation and Development of Japanese Aid Policies: Focusing on the External Development Cooperation Council, 1960-1971
3. 学会等名 The 12th Indo-Japanese Dialogue on the Transformation of International Economic Order of Asia in the 1970s (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐藤滋
2. 発表標題 東南アジアの工業化と石油危機
3. 学会等名 秋田科研2018年度定例第三回研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shigeru Akita
2. 発表標題 From Empires to Development Aid---International Economic Order of Asia in the 1950s-60s in Global History
3. 学会等名 The Practice of Global History, Nuffield College, University of Oxford (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Shigeru Akita
2. 発表標題 PL480, US Food Aid to India and the World Bank in the 1960s
3. 学会等名 The 5th European Congress on World and Global History (ENIUGH), Central European University, Budapest (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Shigeru Akita
2. 発表標題 From Decolonization to Economic Development: The Colombo Plan, the Bandung Conference and Japan's economic cooperation
3. 学会等名 Bandung Humanities: Towards a New Understanding of the Global South, Nanyang Technological University, Singapore (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Shigeru Akita
2. 発表標題 'Intra-Asian competition' and collaboration against the West: the Formation of the 'Cotton-centered Linkages' in Asia at the end of the 19th century
3. 学会等名 Special seminar on Global History, Institute for Global History, Beijing Foreign Studies University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 秋田茂
2. 発表標題 経済援助・開発とアジア国際経済秩序
3. 学会等名 冷戦研究会第37回例会、東京大学総合文化研究科 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hideki Kan
2. 発表標題 Challengers to the 'Postwar Regime' and the 'History Problem' in the Asia-Pacific
3. 学会等名 Japan's 70 years of post-World War II: Historical Memory and Reconciliation; Transformation of the US-Japan Alliance and the East Asian International Order, Kyoto University of Foreign Studies (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hideki Kan
2. 発表標題 The Cold War, the 1970s and the Role of the ADB in Southeast and Northeast Asia
3. 学会等名 International Order of Asia in the 1970s, 台湾政治大学文学院 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Ichiro Maekawa
2. 発表標題 Responsibility for Colonialism: a New Agenda for Historians of Decolonization
3. 学会等名 Global Decolonization Workshop, Paris (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Ichiro Maekawa
2. 発表標題 Retreat from Africa: British Aid Policy during the 1960s and 1970s
3. 学会等名 The 5th European Congress on World and Global History (ENIUGH), Central European University, Budapest (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Ichiro Maekawa
2. 発表標題 Cold War and Decolonization: British Response to the Expansion of the East in Africa in the early 1960s
3. 学会等名 2018 Annual Conference of American History Association, Washington D.C. (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shohei Sato
2. 発表標題 The economic decolonization of oil procedures: 'Kuwait Gap' and the formation of the 'Oil Triangle'
3. 学会等名 International Order of Asia in the 1970s, 台湾政治大学文学院 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Ikuto Yamaguchi
2. 発表標題 Privatisation of International Development Financing: International Monetary System of the 1970s and Developing Countries
3. 学会等名 International Order of Asia in the 1970s, 台湾政治大学文学院 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Gerold Krozewski
2. 発表標題 Transnational economic relations and Statehood: a historical perspective on early 21st century Africa
3. 学会等名 'New Powers, Old Powers', University of Bologna, Italy (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Gerold Krozewski
2. 発表標題 Projects of Development and Statehood between Empire and Nation in the Mid-Twentieth Century
3. 学会等名 2018 Annual Conference of American History Association, Washington D.C. (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計12件

1. 著者名 ジョン・ダーウィン、秋田茂、川村朋貴、中村武司、宗村敦子、山口育人	4. 発行年 2020年
2. 出版社 国書刊行会	5. 総ページ数 472
3. 書名 ティムール以後 世界帝国の興亡1400-2000年 上	

1. 著者名 (翻訳) 山口育人・秋田茂他訳	4. 発行年 2020年
2. 出版社 国書刊行会	5. 総ページ数 374
3. 書名 ティムール以後 世界帝国の興亡1400-2000年 下	

1. 著者名 秋田 茂、脇村 孝平	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 392
3. 書名 人口と健康の世界史	

1. 著者名 秋田茂	4. 発行年 2020年
2. 出版社 中国出版集団 東方出版中心	5. 総ページ数 245
3. 書名 板簡英帝国史 来自亞洲的思考	

1. 著者名 秋田 茂、細川 道久	4. 発行年 2021年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 400
3. 書名 駒形丸事件	

1. 著者名 菅 英輝	4. 発行年 2020年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 326
3. 書名 競合する歴史認識と歴史和解	

1. 著者名 秋田 茂・桃木至朗編著	4. 発行年 2020年
2. 出版社 大阪大学出版会	5. 総ページ数 350
3. 書名 グローバルヒストリーから考える新しい大学歴史教育－日本史と世界史のあいだで－（桃木至朗と共著） 序論「グローバルヒストリーから考える新しい大学歴史教育－日本史と世界史のあいだで－」1-16頁、第4章「世紀転換期のインド系移民排斥と「インド太平洋世界」の形成」72-99頁	

1. 著者名 秋田 茂	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 412
3. 書名 グローバル化の世界史	

1. 著者名 菅英輝	4. 発行年 2019年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 342
3. 書名 冷戦期アメリカのアジア政策 「自由主義的国際秩序」の変容と「日米協力」	

1. 著者名 秋田 茂編著	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 320
3. 書名 「大分岐」を超えて	

1. 著者名 菅英輝、初瀬龍平編著	4. 発行年 2017年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 320
3. 書名 アメリカの核ガバナンス	

1. 著者名 浅野豊美、小倉紀蔵、西成彦、東郷和彦、外村大、中山大将、四方田犬彦、熊木勉、中川成美、加納実紀代、藤井貞和、熊谷奈緒子、上野千鶴子、天江喜久、金哲	4. 発行年 2017年
2. 出版社 クレイン	5. 総ページ数 336
3. 書名 対話のために	

〔産業財産権〕

〔その他〕

Global History Online https://www.globalhistoryonline.org/
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山口 育人 (Yamaguchi Ikuto) (20378491)	奈良大学・文学部・教授 (34603)	
研究分担者	岸田 真 (Kishida Makoto) (40317277)	日本大学・経済学部・准教授 (32665)	
研究分担者	菅 英輝 (Kan Hideki) (60047727)	大阪大学・人文学研究科(人文学専攻、芸術学専攻、日本学専攻)・招へい教授 (14401)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	浅野 豊美 (Asano Toyomi) (60308244)	早稲田大学・政治経済学術院・教授 (32689)	
研究分担者	佐藤 滋 (Sato Shigeru) (90616492)	東北学院大学・経済学部・准教授 (31302)	
研究分担者	佐藤 尚平 (Sato Shohei) (70597939)	早稲田大学・文学学術院・准教授 (32689)	
研究分担者	前川 一郎 (Maekawa Ichiro) (10401431)	創価大学・国際教養学部・教授 (32690)	
研究分担者	K R O Z E W S K I G E R O L D (Gerold Krozewski) (20772982)	大阪大学・先導的学際研究機構・教授 (14401)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	ペインター デイヴィッド (Painter David)		
研究協力者	ケネディ デーン (Kennedy Dane)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	オースティン ギャレス (Austin Gareth)		
研究協力者	メツラー マーク (Metzler Mark)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計7件

国際研究集会 International Workshop: "The Oil Crises and Transformation of International Economic Order of Asia in the 1970" at Sigur Center for Asian Studies, George Washington University, USA	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 International Workshop: "The Oil Crises and Transformation of International Economic Order of Asia in the 1970" at Center for Transcultural Studies, University of Heidelberg, Germany	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 The 12th Indo-Japanese Dialogue on the Transformation of International Economic Order of Asia in the 1970s	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 Special research meeting on A.G. Hopkins, American Empire	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 The 1st British-East Asian Conference of Historians	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 International Order of Asia in the 1970s, 台湾政治大学文学院	開催年 2017年～2017年
国際研究集会 Global History Project Workshop: The Transformation of International Economic Order of Asia in the 1970s and the Oil Crises, 淡路国際会議場「夢舞台」	開催年 2018年～2018年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
米国	George Washington University	Georgetown University	University of Washington	他3機関
英国	University of Cambridge			
ドイツ	University of Heidelberg	Gettingen University		
スイス	Institute of International Studies			